

第34回高校生の安全教育に関する 研究協議会並びに講演会 参加報告

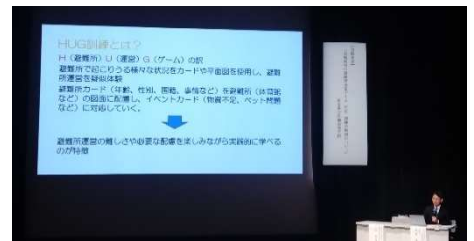
開催日 令和8年1月27日（火）
会場 埼玉会館小ホール
主催 埼玉県高等学校安全教育研究会
参加者 本部 宮岡・出澤

【実践発表】

「岩槻高校の避難所運営ゲーム（HUG）訓練の取組について」埼玉県立岩槻高等学校校長 深井 秀仁 様

HUG訓練は、避難所で起こりうる様々な状況をカードや平面図を使用し、避難所運営を疑似体験することで、避難所運営の難しさや必要な配慮を楽しみながら実践的に学べることを特徴としている。発表では、岩槻高校の生徒と教員が、防災アドバイザーの協力のもとに、岩槻高校を避難場所にしてHUG訓練を実践した活動の内容と様子が報告された。

防災は、「災害を経験して初めて学ぶ」では間に合わない。事前の準備が何よりも大切で必要。そして自分自身の判断で行動する。防災の取り組みは“実行と実効”（実際に行動してその効果を図る）だと発表された。

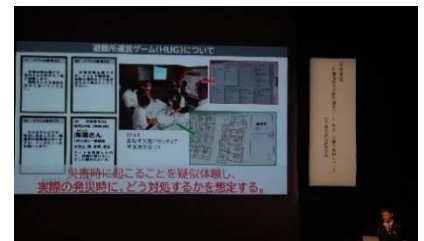


【学校安全に関する情報提供】

埼玉県教育局県立学校部保健体育課 健康教育・学校安全担当 指導主事 山田 朗 様

HUG訓練は、学校保健安全法に基づく第3次学校安全の推進に関する計画において実践的・実効的な安全教育の全国的な推進に適している取り組みの一つである。学校での避難訓練においても、HUG訓練と同様に実効性のある訓練となることが望ましく、各校の実情に合わせた想定と対策が必要で、主事からは実効性のある避難訓練の実践例が紹介された。

その他、自転車青切符制度の周知とともに今まで以上の自転車安全教育の推進と、不審者対応訓練への情報提供があった。



【講演会】

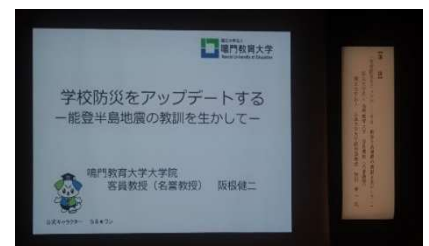
演題 「学校防災をアップデートするー能登半島地震の教訓を生かしてー」

講師 国立大学法人 鳴門教育大学 客員教授（名誉教授）

国立大学法人 広島大学大学院 客員教授 阪根 健二 様

防災教育で教えるべき3つの能力は、「知る、備える、行動する」である。防災教育のステップは、災害の恐怖を伝えるだけの防災（感情）で終わるのではなく、知識や理解を得る防災（理性）から、行動する防災（実践）、そして、ともに行動する防災（意識）へと進めるものである。

防災は、当事者意識や災害イメージの有無で決定的な差が生まれる。教訓を生かすためには、他人ごとではなく、自身のこととして防災教育を実践する必要がある。



【所感】

実践的・実効的防災教育としてのHUG訓練の取り組み発表の内容は大変興味深く、防災に取り組む際は、災害を自分自身のこととして意識し、様々な状況を想定しながら、実際に自分で判断して行動することがいかに大事か学ぶことができた。これからもPTA活動の一環として学校の安全教育に一層協力していきたい。

（文責 本部）